



## “モルック”

- ・新しい遊びを探している人
- ・お金をかけずに盛り上がりたい人
- ・アウトドアで自然の中で遊びたい人
- ・公園で子供と一緒に遊びたい人
- ・ゆる〜く体を動かしたい人
- ・かけひきや勝負事が好きな人

モルックの競技人口は、世界で約30,000人、日本で約1,000人だそうです

### 基本ルール

- ・プレイヤーは交互にモルックを投げて、スキttlを倒して得点を加点していきます
- ・得点の合計がピッタリ50点になったプレイヤーの勝ちです

### 【得点方法は2パターン】

①スキttlが1本のみ倒れた場合  
⇒倒れたスキttlに書かれている数字が得点になります

②スキttlが2本以上倒れた場合  
⇒倒れたスキttlの本数が得点になります

詳細は下記のリンクにて

[話題のモルックのルールや遊び方をわかりやすく解説 | ヤマフキンBlog \(yamafkin.com\)](https://yamafkin.com)

\*\*

## 2024年度 世界大会を函館に誘致！

フィンランド発祥のスポーツ「モルック」の世界大会を函館に誘致しようと奔走してきた。昨夏、国際競技連盟が2024年の函館開催を決定。「現地から用具30kgを抱えて帰国した12年前には全く想像していませんでした」

福岡市在住の小児科医。08年留学先の回国でモルックと出会った。木の棒を投げ、12本の木製ピンを倒し、その本数などで得点が決まるシンプルな競技だが「技術や戦術に加え、運も要素になる。最後まで勝敗が分からないから面白い」ととりこになった。

子どもや病気になる人も一緒に楽しめる点にも着目した。帰国後の11年、日本モルック協会を設立。日本語のルールブックもない中、知人に魅力を伝え歩いた。函館の病院に勤務した19〜20年には、妻千穂さん(47)と週末ごとに競技会を開いた。

転機は思わぬ形でやってきた。お笑いコンビ「さらば青春の光」の森田哲矢さんがテレビ番組の企画で競技に取り組み、注目が集まった。「盛り上げる

「モルック」世界大会を函館に誘致

2023

八ツ賀 秀一さん

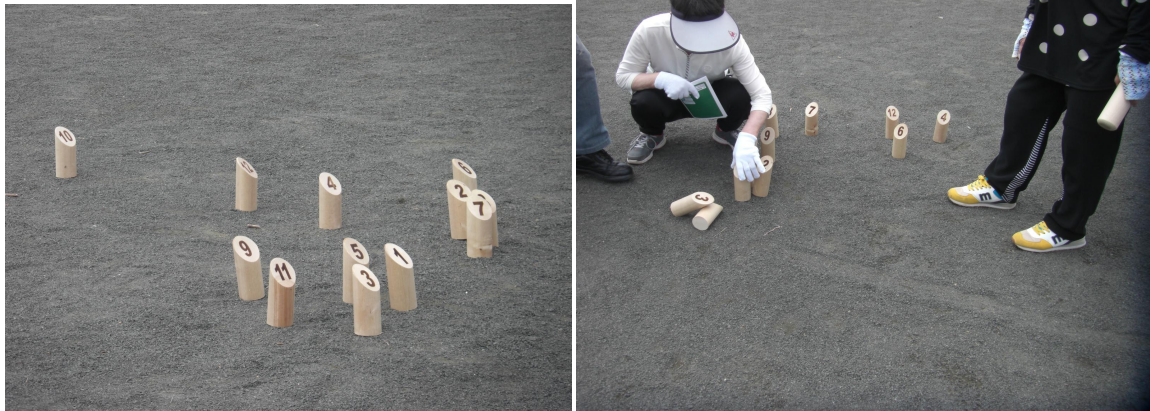
「北欧には障害の有無や年齢にとられない平等の精神が根付いているが、言葉で説明するのは難しい。モルックと一緒に体を動かし、広めたい」。横浜市出身。49歳。(樺運太郎)

「現地で忘れられない体験がある。公園で練習していると見知らぬ人たちが自然と加わり、みんな笑顔でプレーを楽しんだ。」

「北欧には障害の有無や年齢にとられない平等の精神が根付いているが、言葉で説明するのは難しい。モルックと一緒に体を動かし、広めたい」。横浜市出身。49歳。(樺運太郎)

なら今だ」とフィンランドに似て冷涼な函館での世界大会を思い立った。過去17回の大会は全て欧州で開かれたが、日本国内の盛り上がりなどが国際連盟に高く評価された。

## 2023.6.14 しらかば歩こう会で競技を行ったモルックの様子です！



\* 皆で参加して、モルック競技を楽しもう！

